これまでも、これからも　組合員・地域とともに30年③【最終回】

# なかまづくり活動　広がる交流

〈企画・制作／静岡新聞社地域ビジネス推進局〉

## 浅羽北小児童がコメ作り体験

JA遠州中央（本店・磐田市）は、地域との交流や農業への理解を深めてもらう「なかまづくり活動」を各支店で展開しています。今回、浅羽北支店（袋井市）が地元の小学生を対象に実施した食農教育を取材しました。

JAなかまづくり活動で、稲刈りを体験する児童たち

昨年10月14日、袋井市の浅羽北小学校5年生児童約60人が、鎌（かま）を手に学校近くの田んぼを訪れました。大切に育ててきたコメが収穫の時期を迎え、約10アールの田んぼが黄金色に色づいていました。田んぼを提供したのは、地元のコメ農家でJA組合員の古川伸一郎さん。児童たちは、古川さんとJA職員から鎌の使い方や稲の結束方法の説明を聞いた後、稲刈りに挑戦、秋晴れの青空が広がる中、手作業での収穫体験に汗を流しました。参加した鈴木咲蘭さんは「今では稲刈り機を使って収穫できますが、昔の人は手作業で大変だっただろうな、と思いました。コメ作りは初めての体験でしたが、大きく育ってうれしいです」と話していました。

JA遠州中央浅羽北支店は、農業体験を通じて農業や食べ物の大切さの理解を深めてもらおうと、浅羽北小5年生児童のコメ作り体験を支援してきました。児童たちは5月連休明け、学校に準備された育苗箱に籾（もみ）まきをして育苗をスタート。同月下旬の肥料まきでは田んぼにドッジボールを持ち込み、泥だらけになりながら田んぼの中を走り回って田植えの下準備をしました。そして田植え、草取り、出穂（しゅっすい）…。児童たちは総合的な学習の時間の中で、稲が生育する様子を実体験しました。

JA職員や組合員の説明を聞きながら田植えに挑戦

浅羽北小のコメ作り体験は元々、古川さんが同校PTA会長だった2002年に学校から頼まれて始めた取り組みです。古川さん主体で行ってきた食農教育ですが、JA遠州中央の進める「なかまづくり活動」と趣旨が合致することから、数年前から浅羽北支店が取り組みを支援、JAとしても、児童たちの農作業がスムーズに行えるよう、職員が準備や手伝いをしています。

本年度は収穫期直前に台風による大雨被害が発生するなど、天候に恵まれない中でのコメ作りでしたが、例年通り約500キログラムのコメが収穫できました。「ここ（浅羽地区）でもコメ作りを続ける農家が少なくなっています。子どもたちには農業体験を通じて、地域農業に関心を持ってもらえたら」と古川さんは話していました。

## 食と農テーマに取り組み実践

JA遠州中央は、食と農をテーマにした取り組みを地域・生産者・JAが一体となって実践することでJAファン拡大を目指そうと、合併20周年の2012年に「なかまづくり活動」をスタートしました。1支店1協同活動を目標に各支店で活動を進め、コメ作りや大豆の栽培・収穫、野菜作り、各種イベントなどに、未就学の子どもから大人まで幅広い地域住民が参加しています。本年度は60件の活動を計画しています。活動を通じてJAをPRするほか、食と農に関する理解を深めてもらうことで、地域とJAの結びつきを強めています。

袖浦支店の豆腐づくり活動の様子

**JA遠州中央**　天竜川東岸の3市（袋井、磐田、浜松市天竜区）と1町（森町）がエリアで、面積では遠州地方の約半分をカバーしている。山間部の北部地域は茶の栽培が盛んで、中央部から南部の平野部ではコメをはじめ、エビイモ、白ネギ、レタス、チンゲンサイなどの中国野菜など、さまざまな作物が生産されている。

30th ありがとう30年 JA遠州中央

ときめきネットワーク JA遠州中央
磐田市見付 3599−1 本店・27支店・4営農センター・11店
【事業内容】営農・購買・金融・共済・宅地等供給・加工・利用
https://jaenchu.ja-shizuoka.or.jp/